



軽防協ニュース速報（号外）

2021年3月5日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

欧州の国際馬術大会参加馬における馬鼻肺炎神経型の流行

本年1月下旬から2月にかけて開催されたバレンシア（スペイン）で行われた国際馬術大会（CES Valencia Spring Tour）の参加馬を中心に、欧州各地で馬鼻肺炎（EHV-1）神経型の流行がみられています。その影響を受け、欧州10か国で予定されていた国際馬術大会が3月28日まで開催中止となることが決定しております。以下に、現時点までの状況を要約しました。これらのオリジナルのデータは、国際馬術連盟（FEI）およびInternational Collating Centre（ICC）が公開しており、原文は両団体のホームページからアクセスできます。

発生状況

バレンシアの大会会場を2月14日に退厩した4頭が、2月20日にEHV-1の臨床症状を示したことが第一報であり、その翌日には、大会会場にいる50頭の馬が発熱し、1頭が神経症状を示しました。2月26日の時点で、150頭を超える競技馬が大会会場に在厩し、会場は現地の獣医当局によって隔離状態に置かれています。会場内の有症状馬は、72頭（2月26日時点）～84頭（3月1日時点）で推移しており、神経症状を示す馬も含まれています。会場内外の疫学関連馬の死亡頭数は、3月3日時点で6頭にのぼっています。

以上の発生状況からわかるように、今回流行しているEHV-1のウイルス株は、特に病原性および感染性が強いと推測され、バレンシアでの発生と疫学的に関連する流行はフランス、ベルギー、ドイツでも報告されています。そのため、欧州10か国で予定されていた国際馬術大会は3月28日まで開催中止になることが、FEIより発表されています。

また、バレンシアの大会会場の移動禁止措置が取られる前（2月7日および2月12日）にドーハ（カタール）の馬術大会会場に移動した4頭のうち、1頭がEHV-1陽性と診断されており、このように、疫学関連馬におけるEHV-1の発生は欧州以外の地域でも確認されており、バレンシアの大会会場を閉鎖する前に退厩した競技馬が帰厩先でウイルスを拡散することも危惧されています。

馬鼻肺炎とは？

馬鼻肺炎は、馬ヘルペスウイルス1型（EHV-1）あるいは4型（EHV-4）の感染によって引き起こされる疾病の総称です。EHV-1感染の場合は、呼吸器症状（呼吸器型）、流産あるいは生後直死（流産型）、あるいは後駆麻痺を主徴とする運動失調（神経型）の3つの臨床型が知られています。毎年、日本では、おもに若齢馬群での呼吸器型の流行が、また、生産地では流産が散発しています。本症の予防として、ワクチンの接種が実用化されていますが、現在のところ、神経型の予防は効能に入っていません。神経型を発症した馬を早期に診断し、他馬から隔離することが重要な防疫対応となります。なお、EHV-4は、原則として呼吸器型のみを引き起こします。

軽種馬防疫協議会